

この1年の取り組み 2025



東海テレビ放送株式会社

〈東海テレビ放送 経営理念〉

感動と勇気を創造し
人々の役に立つ企業であり続ける



CONTENTS

P 2	ごあいさつ
P 3	Section 01. コンプライアンス順守の取り組み
P 5	Section 02. NO!ハラスメント より良い職場をめざして
P 7	Section 03. 東海テレビを見つめる様々な目
P 10	Section 04. 岩手県をはじめとした被災地支援
P 12	Section 05. 地域とともに…東海テレビの様々な取り組み
P 17	第三者意見
P 19	この1年の取り組み
P 20	おわりに

ごあいさつ

いつも東海テレビをご覧頂き、また様々な番組やイベントなどにお力添えを賜り、誠にありがとうございます。このたび代表取締役社長に就任しました林泰敬と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年も「東海テレビこの1年の取り組み2025」をとりまとめ、皆様にご報告させていただきます。弊社は2011年に「ぴーかんテレビ不適切テロップ問題」を起こし、皆様からの信頼を失いました。以来、私達は「問題を風化させない」という強い決意のもと、8月4日を「放送倫理を考える日」と定め、コンプライアンス・放送倫理意識の向上を図る取り組みを毎年続けています。

そうした中、テレビ局の信頼を大きく失墜させる問題が、今年に入って起きました。フジテレビで従業員への重大な人権侵害があり、同社の対応が不十分であったと第三者委員会が指摘しました。この問題をきっかけに、民間放送全体の人権意識やコンプライアンスを疑問視する声が、視聴者やステークホルダーなどの間で高まっています。

報道機関としての役割や責務を疎かにしていなかったか、どこかでおごりや緩みはなかったか、私達はもう一度、足元を見つめ直す必要があります。弊社では、全従業員を対象にした「放送人研修会」を年2回実施しているほか、コンプライアンスに特化した会議体を運営し、意識の向上と注意喚起を行っています。今後も従業員が放送人としての矜持を忘れることなく、すべての人の人権を尊重し、高いコンプライアンス意識に基づく企業活動を推進できる組織・人材づくりに努めてまいります。

社長として改めて申し上げたいのは、東海テレビ及びグループすべてで働く従業員が大事な財産だということです。従業員一人一人が各自の持ち場で高いパフォーマンスを発揮することで、質の高い企業活動と地域への貢献を実現することができます。しかし、ハラスメントに寛容な職場や、カスタマーハラスメントの被害者を守れない組織体制では、従業員が安心して働ける環境とは言えません。そのようなことにならないよう、「ビジネスと人権」に関わる問題が判明した場合には、社の内外を問わず毅然と対処してまいります。

放送の公共性・公益性が問われる中、東海テレビが目標とするのは、「地域に貢献し最も信頼されるテレビ局」です。そのために、社内外のコミュニケーションを大切にしながら、あらゆるリスクに適切に対応してまいります。さらに、過去の失敗から学ぶ努力を続け、コンプライアンスや放送倫理に関する努力を血肉化できるよう、たゆまぬ精進を続けます。

インターネットやSNSの影響が増していることもあり、テレビ局の存在意義は正念場を迎えています。東海テレビは豊かな地域文化の一助となれるよう、報道機関、社会の情報インフラとしての役割をしっかりと果たしてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

東海テレビ放送株式会社
代表取締役社長

林 泰 敬



信頼される会社を目指して 東海テレビの「人権とコンプライアンス」

2011年8月4日に起こした「ぴーかんテレビ不適切テロップ問題」の反省のもと、東海テレビでは翌年1月に「コンプライアンス推進局」を立ち上げ、様々な取り組みを行ってきました。

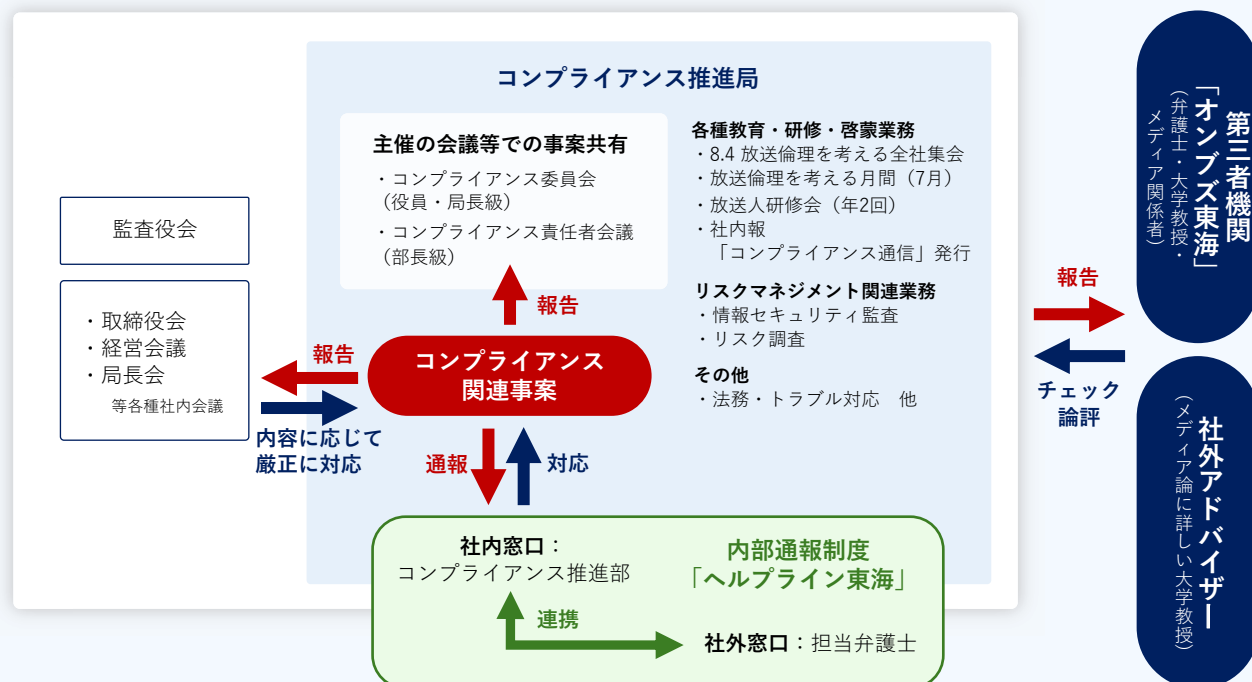
まず、問題を起こした8月4日を「放送倫理を考える日」に定め、毎年この日に合わせて、東海テレビグループの役員・従業員および協力会社スタッフを含む全従業員を対象に「全社集会」を開催。この他、放送に携わる私たちが備えるべき知識をアップデートする「放送人研修会」を年2回実施しています。研修会では毎回、放送をめぐるタイムリーなテーマを取り上げ、これまでに27回を数えました。

またグループ会社を含む役員や局長クラスによる「コンプライアンス委員会」に加えて、ライン部長全員が参加する「コンプライアンス責任者会議」を2013年に設け、階層別に問題意識を共有するための会議体を運営しています。さらに放送局としては三番目となる第三者のオンブズマン組織「オンブズ東海」を稼働させ、東海テレビが手掛ける番組やイベントなどの取り組みについて、外部の目からチェックおよび論評をいただいています。

この他、内部通報制度「ヘルプライン東海」も設置、「ハラスメントゼロ」「放送倫理違反ゼロ」「心理的安全性100%」を目指し、東海テレビで働くすべての方が安心して働くことができる職場づくりに力を入れています。

東海テレビでは、今後も従業員一人ひとりがすべての人たちの人権を尊重し、高いコンプライアンス意識に基づく企業活動を行える組織・人材づくりに努めます。その上で、良質なコンテンツやイベント等を通じ、地域に貢献し、最も信頼されるテレビ局を目指してまいります。

〈東海テレビ・コンプライアンス体制〉



東海テレビでは、2011年の「ぴーかんテレビ不適切テロップ問題」を機に、コンプライアンスに力を入れるようになり、今年で15年目を迎えました。社内外から受け止めたアラームを東海テレビの日々の活動・業務に反映させるとともに、トラブル事案の共有、放送倫理教育、放送人研修などの取り組みを行っています。ここではその一例をご紹介します。

放送倫理を考える全社集会

コンプライアンス推進部 伊藤 雅章

テーマは「人権問題」

「放送倫理を考える全社集会」は、私たち一人ひとりが「放送倫理」について今一度考え直すとともに、当時の問題を風化させないようにすることを目的に開催しています。今回のテーマは「人権問題」としました。冒頭、小島浩資社長は「時がたっても私たちは語り継ぎ、将来の後輩たちに引き継いでいかなければならない。ミスが起きたときは迅速に対応することが大切」とのメッセージを伝えました。続いて各部局からの報告では「顔写真取り違えを二度と繰り返さないために」「ジェンダーの視点から見た報道」「ことばのアップデート」「誰もが平等に楽しめるイベントを～障害者差別解消法改正に伴い～」など、合計8名が発表しました。最後に社外アドバイザーで上智大学教授の音好宏さんからは「東海テレビはこの13年、毎年全社集会という形で繰り返し取り組んでいることが非常に大きな財産になっている」と語りました。

参加者からは「各部署の取り組みについて、時代とともにアップデートが必要であることがわかり有意義だった」「他メディアとコンテンツを競い合う中、全社集会を継続していくことは私たちの力になる」などの感想が寄せられました。

視聴者の方々が信頼されるテレビ局になるために、近道はありません。ぴーかんテレビ問題を「一病息災」としていけるように、これからも「放送倫理を考える全社集会」を大切にしていきたいと思っています。



放送倫理を考える全社集会の様子

コンプライアンス委員会

「コンプライアンス委員会」は、役員・局長・グループ会社役員などをメンバーとし、半年に1回開催しています。社内のコンプライアンス及び情報セキュリティに関する案件について、コンプライアンス責任者会議と連携しながら、役員、局長等が情報共有及び対応策を協議し、グループ全体で方針を決める場としています。委員会には顧問弁護士の参加を仰ぎ、この1年では「フリーランス新法」や「中居正広氏と女性のトラブルをめぐるフジテレビの対応について」などが議題となりました。会社幹部が率先垂範して、コンプライアンスを意識する重要な機会に位置付けています。



コンプライアンス責任者会議

東海テレビでは各部の所属長全員を「コンプライアンス責任者」に任命し、所属部署内でのコンプライアンスや放送倫理意識の浸透に対する責任を担ってもらっています。毎年4回開催している「コンプライアンス責任者会議」では、グループ会社の担当者も加え、法令順守や放送倫理、情報セキュリティなどに関わる事項について、注意喚起する場を設けています。各部で発生したトラブルやヒヤリ・ハット事例とその対応の共有のほか、BPO事案などについても時間を割いて議論を深め、会議の結果は各部署内で周知を図ってもらっています。全従業員が放送に携わる「放送人」として、コンプライアンスを意識しながら業務にあたれるようこの会議を運用しています。



2024年度 第2回放送人研修会

コンプライアンス推進部 伊藤 雅章

テーマは「対人関係の構築こそが、ハラスメントゼロへの第一歩」

今年3月25日に開催した当研修会は、上級ハラスメント対策アドバイザーの植松侑子さんを講師に招き、東海テレビグループ全体でハラスメントの防止意識を高める機会となりました。

折しも元タレントの中居正広氏と女性の問題をめぐるフジテレビの対応が世の中の注目を集める中、「人権」に対する私たち放送人の意識のアップデートが喫緊の課題であることが背景にありました。

植松さんからは、ハラスメントを防ぐためには信頼関係の構築が重要であることや、ハラスメントになる手前の「グレーゾーンの行為」を早い段階で是正していく必要性、さらにはハラスメントに関する知識のアップデートが大切であること等、お話いただきました。

また、研修会の後半では、参加者が4人1組になってのワークショップを行い、講師から提示された「言葉」が注意すべきものかどうかをグループ内で考えました。参加者からは「一つの言葉の受け止め方が年代、人によってこれだけの違いがあることが分かった」「講演テーマがタイムリーだった」「ハラスメントは文脈や関係値によるところが大きいと思った」などの感想が寄せられました。『お互いに敬意を持ち、間違いに気づいたら素直に認め、アップデートする勇気を持つ』ことの大切さを胸に、今後の対人関係を構築していきたいと思います。



講師の植松侑子氏



ワークショップの様子

系列をこえて人権意識の向上を

コンプライアンス推進局 梅村 育宏

名古屋民放局 合同コンプライアンス研修会

5月30日午後、東海テレビを含む名民放テレビ・ラジオ9局合同で、ビジネスと人権を考えるコンプライアンス研修会が行われました。

フジテレビの10時間会見が行われた直後の1月末から動き出したこのプロジェクト。とはいえハラスメントや企業不祥事に関わるデリケートな問題で、各局が手を取り合うことは一度もありませんでした。テレビ5社のコンプライアンス担当者が集まってはみたものの、お互いの腹を探り合うような空気が当初は支配的でした。しかし、このたびの事案で問題視された「ビジネスと人権」で研修テーマが決まると、各社すぐに一致団結、民放ラジオ4局にも声をかけ、名古屋の全局で系列をこえた研修会が実現したのでした。

研修会では、人権問題に詳しい二人の弁護士とメディア論が専門の大学教授が登場。3月末に公表されたフジテレビ第三者委員会の報告書を踏まえ、人権感覚を磨く重要性や放送局の再生に必要な取り組みなどについて話を伺いました。

この日は中京テレビのメイン会場とウェブ配信を併せて480人が参加、「局の垣根をこえてコンプライアンス、人権など業界の課題を考える機会は貴重」「ビジネスと人権のあり方や会社のガバナンスの重要性について示唆される点が多かった」などの感想が寄せられました。



在名合同コンプラ研修

昨年末から世間の耳目を集めることとなった「フジテレビ問題」をきっかけに、放送局の人権意識が問われています。この章では、ハラスメントを起こさない・起こさせないため、東海テレビがこの1年に取り組んだ人権意識向上に関する活動をご紹介します。

多様な声が届く職場へ

みんな活躍プロジェクト（DEI推進）チーム メンバー一同

「女性活躍」から「みんな活躍」への進化

「東海テレビで働く女性がこれまで以上に活躍し、ひいてはすべての従業員が輝ける職場を実現すること」を目標にスタートした「女性活躍推進プロジェクト」が発足して2年が経ちました。その核となる「女性活躍推進チーム」では、活動の一環として、昨年4月に実施した「働く環境について現状把握のために実施した全社アンケート」をもとに、番組づくりにおいて女性の意見がどのように反映されているかを明らかにするため、番組制作を担当している3部署へのヒアリング調査を行いました。女性を排除している状況は皆無でしたが、実質的に企画決定プロセスに参画できていないという声もありました。無意識の偏りや構造的な課題について整理し、社長を委員長とする「女性活躍推進委員会」に提出しています。

また、今年4月には「女性活躍推進チーム」は「みんな活躍推進チーム（DEI推進）」として新たにスタートを切りました。性別・世代を問わず、多様な背景をもつ6名の新メンバーが加わり、より広い視点での取り組みが始まっています。メディア業界では、ハラスメントや差別的言動が改めて問われています。「誰かの声を無視しない」「違和感をそのままにしない」——そんな職場文化を、みんなで育てていく第一歩を踏み出しました。



みんな活躍推進チーム（DEI推進）メンバー



ミーティングの様子

メンタルヘルス相談室の開設について

人事部 三輪 亜貴之

東海テレビで働く従業員が心の健康を大切に、安心して働くことができる環境を整えるため、今年4月から「メンタルヘルス相談室」を東海テレビ本社屋9階に開設しました。臨床心理士・公認心理師の小笠原晶さんをカウンセラーに迎え、毎週火曜日10時～17時に開室（リモート対応も可）。すべての相談は守秘義務を厳守しプライバシーを確保したうえで、仕事の悩みやジレンマ、モチベーションや働き方、プライベートに関する悩みなど、問題の整理や、気持ちを整え「心の健康」を保つために活用できる場となることを期待しています。

（カウンセラーから一言）忙しく働く日々の中、目の前のことでいっぱいになってしまうことが誰にでもあると思います。ほんの少し立ち止まるだけで、視野が広がり、周りや自分の何かに新たに気づくということがあります。少し立ち止まる場所、自分のための時間を、メンタルヘルス相談室で見つけていただければと思っています。

内部通報制度「ヘルプライン東海」

コンプライアンス推進部 長坂 典洋

東海テレビでは、グループ各社を含む、従業員、取引事業者等を利用対象として、2012年より内部通報制度を設けています。通報窓口の名称は「ヘルプライン東海」。窓口は社内と社外にあり、社内窓口はコンプライアンス推進部の従業員、社外窓口は弁護士に委嘱しています。制度の運営に当たっては、「公益通報者保護法」、および社内規程（「内部通報規程」「内部通報制度運用ルール」）に則り、通報者等が特定されないように細心の注意を払うことや、通報したことを理由に就労環境が悪化することがないよう、細心の注意を払っています。また、「通報者等探し」や「嫌がらせ」等を行った者に対し、会社が厳正に対処することも規程に定め、信頼して相談できる窓口であり続けるため、厳格に運営しています。これからも東海テレビグループで働くすべての方々が安心して就業できるよう、サポートを続けていきます。

●オンブズ東海とは

『ぴーかんテレビ不適切テロップ問題』を受け、2012年に発足した第三者機関「オンブズ東海」。法律・消費者経済・マスコミの専門家に委員を委嘱し、第三者的な立場から東海テレビの放送・イベントなどをチェックしていただいています。年4回、3か月ごとに「オンブズ東海委員会」を開催、当社の活動について、委員それぞれご専門の立場から意見をいただいています。

●今年3月の委員会より

今年3月10日の第53回委員会では、議題の一つを「中居正広氏フジテレビ問題に関するご報告」としました。会社側からは、一連の問題の経緯と当社への影響について、委員に説明しました。

本件事案を受けての当社の対応について以下の5点を説明。

- ・1月28日に社長が全社メッセージを発出したこと
- ・「コンプライアンス委員会」で議題とし、フジテレビの一連の対応について「ビジネスと人権」という視点から問題点を共有
- ・昨年実施したハラスメントに関する社内アンケート、および本件事案を受け一部従業員に実施したヒアリングの結果について（ハラスメント事案の報告なし）
- ・ハラスメントをテーマとした「放送人研修会」の開催
- ・内部通報窓口へのアクセスを容易にするための新たな施策の実施

委員からは、以下のような意見が出ました。

- ・中居正広氏と女性とのトラブルへのフジテレビの対応は、隠べいと取られかねないのでは。
- ・別会社とはいえ、系列局であり影響は大きいだろう。
- ・全従業員に向け、社長自らメッセージを発信したことは、非常に大事だと思う。
- ・「ぴーかん問題」以降、コンプライアンス順守の様々な取り組みを続けていることは大切。引き続き緊張感を持って進めていただきたい。

その後、第三者委員会の調査結果も公表された今、「改めて思うこと」について委員の皆さんにご寄稿いただきました。

愚直に続けること

橋本 修三

昨年来のフジテレビ事案は、さまざまなことを考えさせられた。この事案は、出演者がアナウンサーの人権を侵害したというものであり、社員の人権をいかに守るかという会社の姿勢が問われている。東海テレビでは直ちにアナウンサー等に聞き取りをして迅速な対応をされている。各テレビ局は、自らが健全で透明性がある経営を行うための管理体制を構築して運営することが求められている。フジテレビにおいてもコンプライアンス担当部門が設置されていた。にもかかわらず、この事案がごく一部のみで共有され、コンプライアンス担当部門への情報提供すらなされていなかったというのは驚きを禁じ得ない。万一、同様な事案が発生した場合には、直ちにコンプライアンス担当部門と情報を共有化することが必須であることは肝に銘じておく必要がある。

さて、今年も「放送倫理を考える日」である8月4日に全社集会が開催される。これまでに何度か第三者意見を述べさせていただいたが、全社集会を開催して「あの日」を振りかえる機会を持つことの重要性を繰り返し訴えてきた。昨年の集会後においても、BPOにおいて審理や審議入りした事案が何件もある。東海テレビでは、BPOに関わるような事案はなかったが、一昨年11月には、容疑者の顔写真を取り違えて放送してしまったことは皆さんのご記憶に新しいことだと思う。

のど元過ぎれば熱さ忘れるとの諺どおり、人というのは忘れるものであるし、また、時間の経過とともに思い込みをしたり、油断が生ずるものだとすることを忘れないで欲しい。

そういった意味で、毎年8月4日に全社集会を行うことは極めて大きな意義がある。愚直に続けて欲しいと思う。



橋本 修三（はしもとしゅうぞう）氏
名古屋生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、1987年弁護士登録（愛知県弁護士会）。1992年橋本法律事務所を開設し、現在に至る。2012年1月よりオンブズ東海委員。

第三者
意見

放送をご覧いただいている視聴者の皆さんはもちろん、総務省、BPO、そして出稿いただいたスポンサー…

東海テレビは様々な人や組織に「見つめられて」おり、私たちはいただいたその声に真摯に耳を傾け続けています。

ここでは、視聴者の様々なご意見をよりよい番組制作に反映するための取り組みや、

当社を見つめるもう一つの目、第三者機関のオンブズマン組織「オンブズ東海」をご紹介します。

コンプライアンスとジェンダー平等

東 珠実

ぴーかん問題から14年が経過した。今年は、フジテレビ問題により、まさにメディアの倫理が厳しく問われるなかで「放送倫理を考える日」を迎えている。東海テレビは、今年4月2日に日本民間放送連盟から発出された人権尊重およびコンプライアンスの徹底に関する要請を受け、5月1日にすでに、昨年度実施した人権およびコンプライアンスの意識向上に関する取り組みを公表した。その対応は迅速で、内容も多様である。

とはいえ、同社のコンプライアンスは、ぴーかん問題を主な契機に充実・強化が図られてきた経緯もあり、今回のフジテレビ問題の根幹を成すジェンダー問題への対応は、未だ途上にある。とりわけ女性管理職の割合が1割に満たず、女性役員はゼロという現状において、女性の思いを組織の意思決定へ反映することは難しい。

しかし、東海テレビがジェンダー平等の実現に向け、積極的に取り組みを重ねていることは評価すべきである。昨年4月には「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく行動計画」を策定し、具体的な目標を掲げている。また、女性活躍推進チームが丁寧な全社アンケートを実施し、昨年9月のオンブズ東海では、その結果と提言、社としての対応について詳細な報告がなされた。実態において未だ課題は多いものの、現状把握が改善への第一歩である。加えて、これまで番組や公共広告の制作で、性の多様性やジェンダー問題に果敢にチャレンジしてきたことも、生業に直結する重要なアプローチである。

進み道は険しいが、東海テレビには、今後も監視の強化でなく、企業風土の積極的な醸成という「攻め」のコンプライアンスにより、多様性のある未来に貢献する企業を目指していただきたい。



東 珠実（あずま・たまみ）氏
椋山女学園大学現代マネジメント学部教授、同大学院現代マネジメント研究科長。博士（商学）。日本消費者教育学会顧問、一般社団法人中部SDGs推進センター理事など。

第三者
意見

教訓を忘れない大切さ

白田 信行

「ぴーかん問題」から今年で15年目を迎える。これまでの間、東海テレビはこの問題に向き合い続け、倫理面の向上、人権の尊重などさまざまな活動を続けてきた。その姿勢を間近で見聞きしてただけに、キー局フジテレビで起きた中居正広氏と女性とのトラブルは、残念極まりないことだった。

トラブル自体、大きな問題だったが、隠蔽したのではと疑われるほど、会社の対応も無残だった。フジテレビの深刻な不祥事に、東海テレビの社員も失望や憤りを覚えたのではないか。強烈なダメージを感じながら、東海テレビの対応は、迅速で的確だった。ある意味当然だが、アナウンサー全員に重大な人権侵害がなかったかの調査を実施し、被害例がなかったことを確認している。フジテレビの問題が発覚する前の昨年には、東海テレビグループ及び協力会社スタッフにハラスメントに関するアンケートも実施した。フジテレビ問題のような重大な被害の報告はなかったという。

こうした調査に加えて評価したいのは、1月末のフジテレビの記者会見が批判された翌日に早速、小島浩資社長が「東海テレビで働く全ての皆さまへ」と題したメッセージを発信したことだ。情報が混乱する中でもそれぞれの立場で問題に対処していることに感謝し、同時にハラスメントの被害体験があったら「1人で悩まず連絡をしてください」と呼びかけた。そして窮地に陥っているフジテレビで働く人たちを、中傷することなく支える時だと連帯感を表明している。

トップがこのような思いをすぐに全社員に伝えることができるのは、「ぴーかん問題」に対して誠実な取り組みを続けてきたことも大きいのだと思う。

東海テレビはこれからも大事な教訓を忘れずに守っていくだろう。忘れない姿勢を、フジテレビをはじめ他の民放も、ぜひ学んで共有してほしいと思う。



白田 信行（うすだ・のぶゆき）氏
1980年、中日新聞社入社。パリ支局長、社会部長、編集局長を経て、2020年同社常務取締役。2025年、中部日本ビルディング代表取締役社長に就任。

第三者
意見

東海テレビ放送番組審議会

番組審議会は、放送法に基づいてすべての放送局に設置が義務付けられている第三者機関です。東海テレビの番組審議会は8月を除く毎月1回開かれ、番組や放送全般に関するご意見をいただいています。委員は10名で、東海地方の経済、学術、法曹、文化など様々な分野で活躍する方々に委嘱しています。

2024年度の審議会では、ドキュメンタリー、バラエティー、ドラマなどを議題として委員からご意見をいただき、当社の担当者がご質問などにお答えしました。

今後も様々な番組を取り上げて委員から多様なご意見を伺い、番組作りに生かすことで、より一層信頼されるテレビ局となるよう努めてまいります。



東海テレビ放送
番組審議会委員の皆さん
2025年7月1日現在（50音順）

石川 仁志	委員	（株）名鉄百貨店代表取締役社長
岡田 さや加	委員	柳ヶ瀬を楽しいまちにする（株）代表取締役社長
桂 文我	委員	嘶家
河西 秀哉	委員	名古屋大学准教授
後藤 ひとみ	委員長	愛知教育大学名誉教授
武田 健太郎	委員	東海旅客鉄道（株）代表取締役副社長
竹松 千華	委員	（有）I D F 代表取締役
田畑 豊	委員	（株）中日新聞社取締役
鍋田 和宏	委員	中部電力（株）取締役副社長執行役員
福谷 朋子	副委員長	弁護士

視聴者対応窓口

ニュース、情報、バラエティー、ドラマ、スポーツなど様々な番組に対する視聴者の皆様のご意見は、「視聴者対応窓口」に電話、メール、文書などでいただいています。2024年度に寄せられたメッセージは約1万4,500件で、番組内容の問い合わせや意見、番組の放送要望などが届きました。

寄せられたご意見やメッセージは、番組制作担当者、編成担当者などに伝え、今後の番組制作、番組編成の参考にさせていただきます。

「視聴者対応窓口」では、皆様のご意見やご批判を真摯にお伺いし、社内に伝えることで、より良い番組作りに役立ててまいります。

社外モニター

東海テレビの社外モニターは、毎年度上期と下期それぞれ8名の視聴者の方々をお願いしています。1か月に4本の自社制作番組をご覧いただき、2024年度は48番組について様々なご意見をいただきました。

住所、年齢、性別、職業など様々なプロフィールの方から多様なご意見をいただくことは、番組作りの課題や番組編成のヒントなどを頂戴する貴重な機会となっています。

視聴者対応番組「メッセージ1」

視聴者の皆様からいただいた問い合わせ・ご意見・ご要望などは、毎月第4日曜日午前5時15分から放送している「メッセージ1」で一部を紹介しています。番組では、番組審議会の議事概要、CSR活動、BPO事例なども報告し、東海テレビと視聴者の皆様との双方向のコミュニケーションを図る役割を担っています。



「メッセージ1」庄野俊哉アナウンサー

Section 04 岩手県をはじめとした被災地支援

東日本大震災から14年の被災地を襲った「大船渡市の大規模山林火災」。

この出来事は被災地と寄り添い続けた私たちにとってもまた、なんともやりきれない出来事でした。

そして、新たに能登半島地震が襲った石川県を応援するプロジェクトも始動、

当社の被災地支援の取り組みをご報告します。

強さと優しさの原点は…

社長室 田中 達也

13年目の岩手訪問

8月。2024年も小島社長が岩手県庁とJA岩手県中央会、JA全農いわてを訪ね、東海テレビの1年の取り組みを報告しました。報告は2011年の不適切テロップ問題以降続けられ、私も3回目の同行になりますが、毎年訪問するたびに感じるがあります。それは力強く変貌する被災地と明るく親切な岩手県の人々の姿です。未曾有の震災から10年以上になりますが、被災された方々の心の傷が癒えたわけではないはずですが、にもかかわらずこの力強さと他人に対する優しさはどこからくるのでしょうか。今回岩手県を訪問した際、童話作家の宮沢賢治が話題になり、宮沢賢治に関する資料をいただきました。そこにはあの雨ニモマケズの一節、「あらゆることを自分を勘定に入れずに良く見聞きしわかり そして忘れず」とありました。その後に「東に病気の子供あれば行って看病してやり…」と続きます。困難に打ち勝ち、自分を勘定に入れずに良く見聞きしわかり、そして忘れず、人々を助ける。改めて雨ニモマケズに触れた時、岩手県の皆さんの力強さと優しさの原点に触れたように感じました。



岩手県庁の皆様と



JA岩手県中央会・JA全農いわての皆様と

この1年の主な被災地支援の取り組み

▶番組での取り上げ

ニュースONE

- 《2024年》8月28日（水）第5回記念 岩手県の観光と物産展（名鉄百貨店）
11月14日（木）いわて食の商談会in名古屋（名古屋東急ホテル）
《2025年》3月11日（火）東日本大震災からきょうで14年 各地で祈り
この地方でも東日本大震災の犠牲者を悼み、
また、被災地の復興への祈りが捧げられたことを紹介
3月14日（金）大谷ジャーナル『未来へ 震災14年のフクシマ』
コメンテーターの大谷昭宏氏が福島第一原発から40kmに
位置する福島県川俣町取材。震災から14年を経た
今の町の状況や少しずつ歩みを進めている人々に話を聞いた。

スイッチ！

- 《2024年》8月28日（水）第5回記念 岩手県の観光と物産展会場から生中継（名鉄百貨店）
9月25日（水）第2回秋の全国逸品 うまいものまつり会場から生中継（名鉄百貨店）
※岩手県の牛タン・カルビのお弁当などを紹介
11月12日（火）「三陸と常磐産 うめえもん！キャンペーン」の紹介
11月14日（木）第14回大東北展の会場から生中継（ジェイアール名古屋タカシマヤ）
《2025年》1月22日（水）第60回宮城県観光と物産展の会場から生中継（名鉄百貨店）
2月 5日（水）第12回全国逸品 うまいものまつりの会場から生中継（名鉄百貨店）
※岩手県の銘菓「くりようかん」などを紹介

▶岩手米の社内販売と社員食堂での消費

昨年10月から11月に岩手産米「銀河のしずく」新米の社内販売を実施し、5kg入り4,000円を197袋販売。また、2024年度中、社内食堂で岩手産米「ひとめぼれ」を計3,475kg消費しました。

▶ふるさとイッチー祭

昨年10月26日（土）・27日（日）開催の「ふるさとイッチー祭2024」の復興支援コーナーとして、岩手、宮城、福島、熊本各県のブースを設け、特産品の販売と観光PRを実施。
また、石川・能登地震の被災地支援のため、「花嫁のれん」のステージ、ブース展開を行いました。

岩手・大船渡市大規模山林火災と3.11

報道部 山本 恵汰

いち記者としてできること

今年2月末から3月にかけ、全国各地で相次いだ大規模な山林火災。私とカメラクルーの3人は、火災の発生から10日程たった岩手県大船渡市へ入りました。避難所に身を寄せた方にとって、日々のニュースは大切な情報源でした。「ニュースのヘリ映像で家が大丈夫そうなことが確認できた」と話す方も多く、不安な時間を過ごす災害現場では、“今起きていること”をより速く、正確に届ける重要性を再認識しました。鎮圧宣言が出たのは3月9日。同時に避難エリアが解除され、約2週間ぶりに家路についた住民たちは、笑顔を見せて喜びあう方、また焼け落ちた自宅を前に涙をうかべる方もいました。そんな中迎えた3月11日。今年は東日本大震災から14年と大規模山林火災の悲しみが重なる1日となりました。取材を通じて、津波で会社が流され、また山林火災によって自宅を延焼して失い、涙を流す男性と出会いました。今でも何を質問するのが正解だったのかを考えています。事件、事故、そして自然災害。いつでも起こりうることに對して、報道として速く正確に、そして人の気持ちに寄り添ったニュースを届けられる記者になれるよう日頃から精進していきたいと思っています。



燃えた漁協の倉庫



震災後に設置された慰霊碑と山林火災の被害を受けた山

「花嫁のれん能登復興プロジェクト」始動

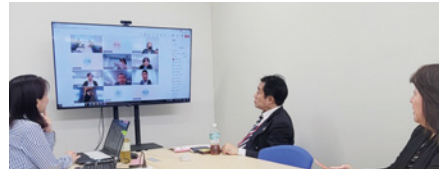
CSR推進部 伊藤 順子

わたしたちにできることを

能登の復興は今どれくらい進んでいるのか？ローカルメディアに出来ることはないのか？日々仕事をしながら、そんな風に思っていた人たちが緩やかにつながり、能登の復興について考え、発信をしていくプロジェクトが今年4月に始動しました。東海テレビだけでなく、石川テレビや中日新聞、関西テレビなどで働く人や、被災地能登を撮り続けるカメラマン、石川県を中心に活動するデザイナーたちが、それぞれの持ち場で、それぞれのリソースを使い、能登のことを見つめ、考え、伝えていくプロジェクトです。東海テレビはかつて「花嫁のれん」という昼ドラを放送し、被災地能登はドラマの撮影でお世話になった思い出のある地域でもあります。ドラマに携わっていた従業員たちが地震以降、能登のことを気かけ、何か自分たちに出来ることはないかと社内で話をするようになったのが、プロジェクト発足のきっかけです。そして私自身、コロナの後遺症に悩まされていた頃、新聞の一面トップに後遺症のことが取り上げられ、世の中から忘れ去られてはいないという感覚が、どれだけ生きる希望につながるかを実感した経験もあり、「伝える」というメディアの大事な役割のひとつにしっかり取り組みたいと痛感しました。「花嫁のれん能登復興プロジェクト」では、能登のことを見つめ、能登の今とこれからを伝え続けていきます。



地震以来初めて復活した七尾の「青柏祭」



各地と結んでのリモート会議

Section 05 地域とともに…東海テレビの様々な取り組み

東海テレビがお届けしているのは番組やニュースだけではありません。

コンサートや展覧会など大小様々なイベント、配信コンテンツ、その他、通販事業や新規のビジネスセミナー。

形は違えど、地域の方々の暮らしを豊かなものにするお手伝いをしたい、という想いがその根幹にあります。

地域の皆様に愛され、役に立つコンテンツをこれからも届けてまいります。

スイッチ！

生活情報部 服部 篤幸

番組史上初！ゴールデンへの挑戦

朝の情報番組「スイッチ！」が放送3000回を記念して初のゴールデン特別番組を制作しました。パネラー総出演で名古屋市内をバスで巡りながらグルメ・名所・文化・歴史にまつわる情報満載のナゴヤ愛クイズに挑戦。地元で愛される「東山動植物園」や愛知発の人気チェーン「スガキヤ」「ココイチ」などを舞台に奮闘しました。クライマックスは、芸どころ名古屋が誇る伝統の劇場「御園座」から！ステージに2人の松平健さんのシルエットが現れ、どちらが本物かを当てる問題。レギュラーコーナーを持つ地元出身のスターを間違えると「非常にマズい」のですが、結果は不正解…。しかし、フィナーレでは、愛工大名電高校吹奏楽部、三重高校ダンス部と地元の未来を担う若者と共に作り上げた一夜限りの「マツケンサンバII」をノーカットで放送、大変な盛り上がり。「イチバン近くに！」をキャッチフレーズに、明るい朝の情報番組として築き上げてきた番組イメージを、また違う角度から訴求したエンターテインメントとしてお届けしました。放送12年目、3000回記念というキッカケを打ち出す中、変わらず心掛けたのは「観ている皆さんが地元を誇らしく、楽しく思ってもらえる」こと。ほぼオールスタッフ、オールキャストでチャレンジした意欲作となりました。

スイッチ！
放送3000回記念
ナゴヤ愛でズバリ
当てまSHOW
2025年2月18日（火）放送



名古屋城にて



東山動植物園にて 東海地方の学生とコラボした「マツケンサンバII」（御園座にて）

祝1000回記念！ゴールデンだよ！ぐっさん家 博多華丸・大吉さんとぐ典の旅！

制作部 三浦 寛

“ぐっさん目線”で東海地方の魅力をお届けすること22年！

Jeepにスイカにマグロの赤身に…。ぐっさん（山口智充さん）の好きなもの・ユーモア・温かい人柄がたくさん詰まっている「ぐっさん家」は2003年4月にスタートし、昨年8月にレギュラー放送1000回を迎えました。番組ではこの大きな節目に、豪華ゲスト“博多華丸・大吉”さんをお招きし、「ゴールデン2時間SP」と「レギュラー放送1000回」を制作、放送しました。ゴールデンSPでは、20年以上の番組情報が詰まった書籍「ぐ典」を片手に、番組ならではの名古屋の楽しみ方をお届け。また、過去の番組ライブの様子や美術倉庫の見学ツアーなど、番組の歴史を感じられる内容をふんだんに盛り込んだりと、ぐっさんとスタッフがー丸となり番組作りに励みました。1000回目のレギュラー放送では、大須のみそとんちゃんの名店へ。ぐっさんと博多華丸・大吉さんとの仲睦まじく、昔から親交のある間柄ならではのトークに、我々スタッフにとっても感慨深い放送となりました。長年番組が続けられているのは、東海地方の皆様に愛していただき、ご協力いただいているからこそ。これからも関わっていただくすべての皆様への感謝を忘れず、皆さんの“ワクワク”をこの「ぐっさん家」からお届けしたいと思います。

祝1000回記念！ゴールデンだよ！ぐっさん家
博多華丸・大吉さんとぐ典の旅！
2024年8月20日（火）放送
祝1000回！ぐっさん家に
博多華丸・大吉さんがやってきた！
2024年8月24日（土）放送



1000回記念ゴールデンSP「ぐ典」を持って出発!! レギュラー放送1000回 大須・みそとんちゃんの名店で乾杯!!

南海トラフ地震臨時情報

報道部 松井 大地

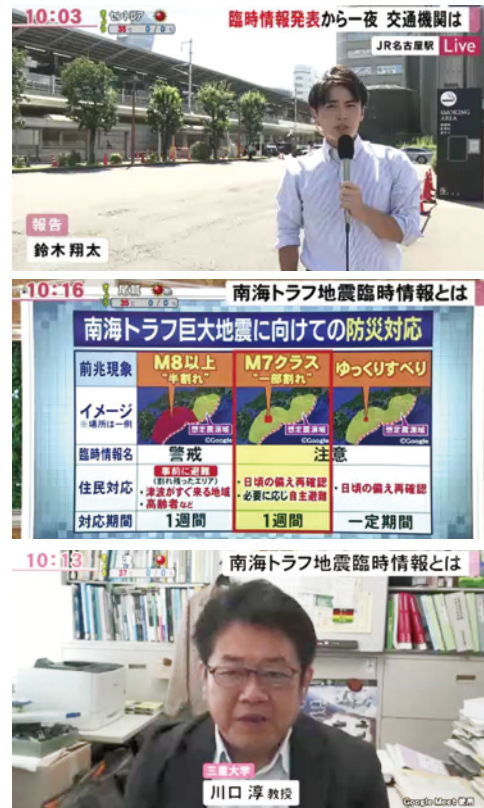
初の発表をどう伝えるか

昨年8月8日午後、宮崎県日向灘沖を震源とする地震の発生に伴い「南海トラフ地震臨時情報」が初めて発表されました。

大半の視聴者の方にとっては名前すら聞いたことあるかどうか微妙、しかし非常に重要な情報をどう伝えるのか。情報発表直後から部内で検討を重ね、発表翌日は夕方の「ニュースONE」に先立ち、朝の情報番組「スイッチ！」でも詳細に伝えることを決定。当日の放送枠の大半を使い、東海地方の自治体や企業、住民の動きをVTRや中継で伝えた上で、専門家（大学教授）がリモート出演して、改めて「臨時情報」とは何かについて解説してもらいました。

特に東海地方では地震の揺れがない状態で発表された「臨時情報」について、「地震に対する予知ではない」ことを視聴者に正しく理解してもらうこと、その上で「次に起きる可能性がある巨大地震」への備えを改めて進めてもらうこと、を主に意識して放送に臨みました。

地震防災については一回の放送だけで終わるものではありません。日頃から視聴者に寄り添った報道を続けることで、東海テレビの報道が、地域防災に役立つ存在であり続けたいと思っています。



「スイッチ！」で詳細に伝えました

小田凱人 運命に導かれたパリで金

スポーツ部 神谷 英政

「車いすテニス」をもっとメジャーに

地元から世界へ、一躍世界に知られる存在となった一宮市出身の「小田凱人選手」。

パリパラリンピックの前哨戦「全仏オープン」で連覇を達成した試合後、「車いすテニスを始めてからずっと夢が続いている感じ。でもパリで終わりではない。第一章です。」と語ってくれた小田選手。

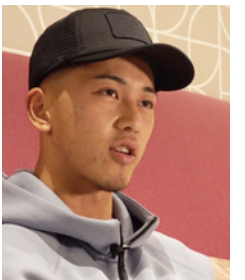
目指す先はもちろん「パラリンピックでの金メダル」でしたが、それよりも自分を病気のどん底から救ってくれた「車いすテニス」の普及、障がい者だけのスポーツにしたいくないという強い想いがありました。パラリンピック期間に「メディアへの露出を頑張ってきたのに地上波で試合の放送はないのか」とSNSで疑問を呈したことも批判を覚悟したうえでのものでした。派手な見た目や強気な発言から偏見を持たれることもありますが、取材を通じて彼の根底にある想いを私は常々感じていました。だからこそ、その想いが伝わるような情報や発言を使用することを意識して番組を制作しました。

大逆転劇の「金メダル」という結果で世の中に大きな話題を作りましたが、これもまだ彼の描くビジョンの第一章です。数年後に「車いすテニス」、そして「小田凱人」がどうなっているのか、それを楽しみに取材を続けていきたいと思っています。そして、この番組が彼の本当の想いが伝わる一助となっていれば嬉しい限りです。

夢の続き
パリに導かれた
ヒーロー
2024年
9月14日（土）放送



名前の由来となった凱旋門

全仏OP優勝直後
パリ市内を歩く小田選手パリのホテルで
インタビューの様子

ふるさとイッチー祭2024

営業推進部 中村 周

愛されるテレビ局を目指して

昨年10月26日（土）～27（日）に、視聴者への感謝を込めた『イッチー祭』を名古屋市中区の久屋大通公園エディオン久屋広場とエンゼル広場にて開催しました。

エディオン久屋広場の特設ステージではレギュラー番組の中継や収録を行い、番組制作の様子を会場にお越しいただいた方々に楽しんでいただきました。番組のほか、地元・三重高校の生徒によるダンスや、BOYS AND MEN、TEAM SHACHIといった地元のアイドル、さらに全国に売り出し中のSHOW-WAのステージもあり、会場を盛り上げました。

会場内に設けた番組や各部署のブースは、より深く東海テレビを知っていただく契機に。ご協賛いただいた企業各社のブースもグルメあり、商品の展示やサンプリングあり、足湯ありと多岐にわたる展開で、ワクワク感いっぱいの空間となりました。

また、「イッチー祭」が大切にしている被災地支援については、例年と同じく東日本大震災で被災した福島、宮城、岩手と熊本地震で被災した熊本、の各県の特産品を販売いただく「復興応援ブース」を設けました。さらに、元日の能登半島地震で被災した石川県を支援するため、昼ドラ『花嫁のれん』で主演を務めた羽田美智子さんが登場するステージやブース展開を実施。復興の灯りをともし続けています。



エンゼル広場のステージの様子



「花嫁のれん」ブースも大盛況！

中日ドラゴンズとの協業ドラマ

東京制作部 遠山 圭介

東海テレビだからこそ実現！

2016年にスタートした土ドラは、今年10年目に突入しました。その間、2025年8月現在放送中の「浅草ラスボスおばあちゃん」を含め57作品を放送してきましたが、中でもこれまでになかった形で地元とかかわることができたドラマが、昨年秋に放送した「バントマン」です。

プロ野球選手の引退後を描いたストーリーで、なんと中日ドラゴンズとの全面タッグが実現。主人公を「元ドラゴンズの選手」というキャラクターに設定し、ユニフォームも特注、バンテリンドーム ナゴヤだけでなく球団事務所などドラゴンズの関連施設で撮影を行うなど、徹底して地元色を意識した演出を心掛けました。ドラゴンズがここまで撮影に協力するのは連続ドラマでは初めてとのことで、放送前後から様々なメディアからも取材を受けるなど、大きな反響をいただきました。これまで中日ドラゴンズと共に歩んできた東海テレビだからこそ実現できたドラマだと考えています。

制作の都合上、土ドラの主な撮影は関東地方で行うことが多いのですが、キャラクターづくりや設定、セリフなど、東海三県の空気感が出せるときは積極的に取り入れることを心掛けています。これからも「東海地方から全国に届けている」という精神を忘れずに制作に邁進していきます。

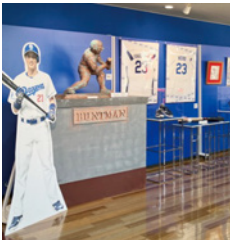
土ドラ
バントマン
2024年10月12日（土）
～12月21日（土）放送
（全11話）



バンテリンドーム ナゴヤで撮影



ドアラも応援

バンテリンドーム ナゴヤ内で
ブース展示でタッグ

愛知駅伝、地域とランナーを繋ぐ タスキリレーで熱狂！

コンテンツ事業部 深谷 弘

Locipo新企画也大盛況

昨年12月7日（土）、愛・地球博記念公園（モリコロパーク）にて「第17回 愛知駅伝」が開催されました。大会当日は、愛知県内各市町村を代表するランナーたちが、郷土の誇りを胸に一本のタスキを繋ぎました。モリコロパーク内の沿道からは熱い声援が送られ、会場は一体感と感動に包まれました。

動画配信サービスLocipoにおいても、各中継地点での手に汗握るタスキ渡しのシーンや、全参加各市町村の感動的なゴールシーンをライブ配信いたしました。これにより、会場にお越しになれなかった多くの皆様にも、駅伝の興奮と選手たちの頑張りをリアルタイムでお届けすることができたと思います。

さらに今回は新たな試みとして、会場にセルフカメラコーナー「Locipo presents タスキpost」を設置しました。ここでは大会参加者や来場された方が、チーム名や意気込み、レース後の感想、応援メッセージなどを自由に動画で撮影。これらの動画はLocipoで使用させていただき、会場に新たな賑わいを創出し、参加された皆様が主役となって大会を盛り上げる一助となりました。今後も引き続き、地域社会の活性化に繋がる様々な取り組みをLocipoを通じて積極的に推進して参りたいと思います。

愛知駅伝（第17回愛知県
市町村対抗駅伝競走大会）
2024年12月7日（土）
愛・地球博記念公園（モリコロパーク）



タスキPOST・サムネイル



熱い想いを語ってくれました



場内に設置されたカメラの様子

イッチーみらいシート

事業部 大園 美也子

子どもたちに一流のコンサート体験を

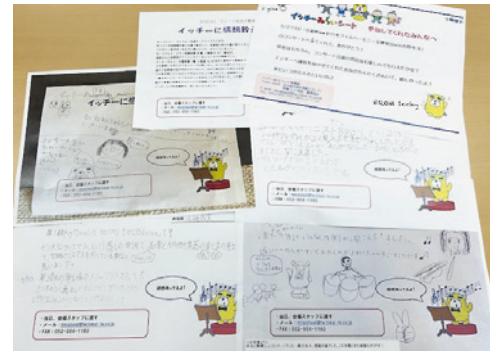
1997年にスタートした「スーパークラシックコンサート」では、年間を通じて国内外で活躍する世界一流の演奏家によるステージをお届けしています。2023年に事業部の取り組みとして、東海地区の子どもたち（小学生・中学生）に豊かな芸術体験をプレゼントしようと、各公演10名、計50名を保護者と共に無料招待する「イッチーみらいシート」が始まりました。初年度は5公演に317組、昨年度は7公演に528組の応募がありました。応募時には、イッチーに「将来の夢」を教えてくださいました。その夢は、ピアニストや宇宙飛行士、野球選手と様々。当選者にはイッチーからの招待状が届き、公演までには鑑賞にあたってのマナーもお伝えします。

当日、会場では蝶ネクタイ姿のイッチーが出迎え記念撮影。用意された招待席には2万円を超えるものもありますが、周囲のお客様には温かく見守っていただき感謝しています。

終演後、海外のオーケストラや辻井伸行さん、反田恭平さんなどの人気ピアニストの名演奏…初めて「見る・聴く」楽器の迫力ある音の響きを、体一杯に受けて笑顔で帰っていく子供たちに、担当者も毎回「幸せ」をいただいています。後日届く感想文にもおのおの思いが溢れており、この日の体験が子供たちの未来の何処かで役に立ってくれることを願ってやみません。



蝶ネクタイ姿のイッチーがお出迎え



お礼状と感想文

東桜デパート、2年目の歩み

ビジネスプロデュース部 村野 晋

地域の魅力を全国へ

昨年4月にオープンしたお取り寄せWEBショップ「東桜デパート」は、おかげさまで2年目を迎えました。立ち上げ当初40社だった出店ブランドは85社に、約200点だった商品数も350点へと増え、少しずつではありますが、認知度も高まりつつあります。取り扱う商品は、私たちの地元・東海地方の魅力が詰まったスイーツやグルメ、雑貨が中心。まだ広く知られていない逸品を丁寧に紹介し、生産者の想いやこだわりと共にお届けしています。生産者の方々と一緒に、地元を盛り上げたいという想いは変わらず、サイト運営の原動力となっています。一方で、社内メンバーのみで運営しているため、SNSやインターネット広告の展開やサイトの使いやすさの追求、アクセス分析など、いずれも経験がなく試行錯誤の連続です。思い描く理想と現実のギャップに悩むことも少なくありません。それでも、少しずつエリアを広げながら、新たな出会いにも恵まれています。昨年は、当社が交流を続けてきた岩手県からご縁をいただき、「宮古の瓶ドン」の販売が実現しました。今後も地元の逸品はもちろん、各地の魅力的な商品をお届けし、より多くの方々に喜んでいただけるサイトを目指してまいります。

※東桜デパートHPは[こちら](#)からご覧いただけます。



東桜デパートHP



岩手県宮古市の名物「瓶ドン」

東海テレビプレミアムビジネス講座 Edge

経営戦略部 木村 貴雄

新規事業の作り方を動画で学べる ビジネススクール

経営戦略局では地域社会への貢献と活性化をテーマに、新たな収入源の創出に取り組んでいます。その一環として2025年3月に《東海テレビプレミアム ビジネス講座 Edge》を立ち上げました。《Edge》は、今や事業会社にとって必須となっている「新規事業の創出」を学び、実践できる動画型ビジネススクールです。近年、国内外の産業構造はEV（電気自動車）やカーボンニュートラルといった大きな潮流のもとで転換点を迎えています。「100年に一度の大変革期」ともいわれるこの時代、あらゆる業種において、新たな価値を産み出す力が求められています。こうした社会課題に対し、新規事業家・守屋実氏、連続起業家・粟生万琴氏とタッグを組み、サービスを開発しました。《Edge》は「学ぶ」ととどまらず、「産み」「育てる」をテーマに幅広い企業にご参加いただいています。今後も参加企業と共に、社会に必要とされる事業を共創し続けてまいります。



東海テレビ福祉文化事業団

社会福祉法人 東海テレビ福祉文化事業団 松岡 太一

ひとりでも多くの方々に笑顔を！

「社会福祉法人 東海テレビ福祉文化事業団」は東海地方の障がい者やお年寄り、子どもたちの福祉の向上を目的に1979年に設立されました。年間を通じて「愛の鈴しあわせキャンペーン」として募金活動を実施しています。その他、東海3県と名古屋市の障がい者の福祉に携わっている社会福祉団体に対する軽自動車「愛の鈴号」の寄贈や、身体機能のハンディを克服し、社会的に自立・活躍している地域在住の方々に「東海テレビ ひまわり賞」を贈り顕彰。昨年は初めて受賞者の方々を特集する番組を放送しました。また「愛の鈴チャリティ 東海美術作家展」を主催して、純益のすべてを東海地方の社会福祉向上に役立てさせていただいております。昨年は事業団設立45周年を迎え「イッチー祭」で「チャリティオークション」や、「福祉の店」を展開したほか、災害援護事業にも力を入れており、東日本大震災、令和6年能登半島地震へ義援金を寄託しました。これからも困っている方、がんばっている方へ微力ながら力となるよう地域社会の福祉の向上に努めてまいります。



「ひまわり賞」顕彰の様子



愛の鈴号

「SDGsアクションレポート2024」 発行

CSR推進部 勅使河原 由佳子

ひとりひとりの想いで、つくる未来

当社のSDGs・CSR活動をまとめた『SDGsアクションレポート2024』では、「スイッチ！」やエアアドラマ「ようこそ～家族のかたち～」のプロデューサーをはじめ、日々の業務の中で地域に寄り添う社員たちのあたたかな想いを紹介しています。また、社長と社員による座談会の様子も掲載しました。それぞれの想いに共通していたのは、放送や活動を通じて「地域の方に笑顔を届けたい」「幸せを感じてほしい」という、まっすぐでやさしい願いです。この想いこそが私たちの存在意義であり、これからも「地域に貢献し、最も信頼されるテレビ局」を目指して、ひとりひとりの想いを力に、地域とともに未来を創ってまいります。※SDGsアクションレポート2024は[こちら](#)からご覧いただけます。



▲SDGsアクションレポート2024

座談会の様子

2025年 厳しく問われる 民放テレビ局のコンプライアンス

上智大学 音 好宏

この1年の放送界を振り返るなかで、最も大きなコンプライアンス事案がフジテレビ問題であることに異論を唱える人はいないだろう。

2024年12月の週刊誌報道に端を発した人気タレントとフジテレビ社員の女性とのトラブルは、フジテレビの「クローズド会見」なども含め、フジテレビのコンプライアンス対応の不味さを露呈するのみならず、十分にガバナンス体制が機能していなかったことを世間に晒すこととなった。フジテレビと、その親会社であるフジ・メディア・ホールディングス（以下、FMH）は、日弁連のガイドラインに基づく第三者委員会に調査を依頼。3月末に公表された第三者委員会の報告書では、当該タレントの行為を人権侵害と認定したのみならず、フジテレビにおいて、コンプライアンスを確保するための仕組みが機能せず、また、ガバナンスの体制とその実効性についても厳しい指摘がなされている。

この一連のフジテレビ問題は、単にフジテレビという一事業者の問題に留まらず、日本の放送事業者の信頼性に疑義が指摘される事態に発展する。特にこの事案が表面化したのが国会会期中ということもあり、与野党の議員からフジテレビを含む放送局のガバナンスのあり方に関する批判的意見が相次ぐとともに、放送事業を所管する官庁である総務省に対応を求める声も強まった。

そのようなこともあって、第三者委員会の報告書の公表を受けて総務省は、FMHとフジテレビに対して、総務大臣名で「再発防止に向けた取り組みの具体化について4月中に、その実施状況については3ヵ月以内に国民視聴者及びスポンサー等の関係者に対してその内容を明らかにするとともに、総務省に報告する」よう求めるとともに、民放連とNHKに対しても、「人権尊重、コンプライアンスやガバナンスに関する施策の実効性を確保するよう取り組むよう要請」する行政指導がなされた。

あわせて総務省では、「放送事業者におけるガバナンス確保に関する検討会」を設置。民放テレビ事業者のガバナンスのあり方について検討。この秋口までに一定の結論を取りまとめることになっている。放送事業者は、その事業の公共性・公益性に鑑み、より高いガバナンスの維持が求められよう。

周知の通り、FMHは、放送法が定める認定放送持株会社として、フジテレビなどのグループ会社を傘下に置くとともに、株式を上場している。言わば上場企業として、国際的な株式市場からの監視に晒されている。それゆえに、今回の件で、広告主によるCM出稿の差し止めを含む、市場からの厳しい非難に晒された。他方において、日本の民放テレビ局の多くは、非上場会社である。放送法は、放送事業者の自主自律を、その基本原則としている。そのことからすれば、放送事業者のガバナンスが十分に機能しているのかの検証に関しては、一義的には、個社の自主的、自律的な検証・チェックにより維持されるべきである。

加えて、今回のフジテレビ問題で露呈したように、FMHは、2023年11月末にグループの「人権方針」を機関決定し、それを公表していたにもかかわらず、今回の事案に見られるように、その人権指針は実効性を持たなかった。言わば、形式的に体裁を整えただけでは実効性を伴わないのである。求められるのは、経営トップを始めとした放送事業を担う個々の構成員のコンプライアンスに関する自覚と、その実効性に向けた不断の取り組みである。

この5月、フジテレビ問題をきっかけに、在名の民放テレビ・ラジオ局が合同で、「ビジネスと人権」をテーマに、コンプライアンス研修会が開催された。私も参加させていただいたが、在名民放テレビ局のコンプライアンス部門が合同で研修会を行うのは初めての機会だったという。今回の研修会がきっかけで、各局のコンプライアンス部門どうしが連携するチャンネルが生まれたことを評価する声も聞かれた。

先に見たように、フジテレビ問題を契機に、放送局の人権意識、そのコンプライアンス、そして、そのガバナンスのあり方については、多くの批判の声が上がり、また、その信頼性は、いまだに揺らぎ続けている。一度、揺らいだ信頼を取り戻すには、真摯な対応を続けるしかない。

東海テレビでは、2011年の不適切テロップ問題を契機に、「オンブズ東海」の活動を始め、放送人研修会、放送倫理を考える全社集会等の取り組みを続けている。このような継続的な活動こそが大切であることは言うまでもない。加えて、そういったコンプライアンスに対する意識を、個々の構成員が、我がこととして自覚的に向きあい続けることこそが肝要なのである。



音 好宏（おと よしひろ）氏

上智大学文学部新聞学科教授。1961年札幌生まれ。民放連研究所勤務。上智大学新聞学科助教授、コロンビア大学客員研究員などを経て、2007年より現職。衆議院総務調査室客員調査員、NPO法人放送批評懇談会理事長などを兼務。専門は、メディア論、情報社会論。著書に『放送メディアの現代的展開』（ニューメディア）、編著に『地域発ドキュメンタリーが社会を変える』（ナカニシヤ出版）などがある。

この1年の取り組み

2024年

7月	放送倫理を考える月間
8月2日（金）	放送倫理を考える全社集会 「東海テレビこの1年の取り組み2024」発行・HPに公表 社外アドバイザー報告会
8月8日（木）	第40回 ATP賞テレビグランプリ 特別賞「花嫁のれん」制作チーム
8月23日（金）	第44回コンプライアンス責任者会議
8月29日（木）	小島浩資社長 岩手県等訪問〔～30日（金）〕
9月5日（木）	個人情報保護・情報セキュリティ及び社有P C運用に関する内部監査 〔～12月24日（火）〕
9月9日（月）	オンブズ東海第51回委員会
9月10日（火）	第27回コンプライアンス委員会
9月19日（木）	2024年 日本民間放送連盟賞 【番組部門（テレビドラマ）優秀賞】 「おっさんのパンツがなんだっていいじゃないか！」 【番組部門（テレビ報道）優秀賞】 「ひまわりと登山靴」 【CM部門（テレビCM優秀賞）】 「公共キャンペーンスポット／＃ハタチ #学生 #いま」 【技術部門 技術奨励賞】 「市販のマイク付きBluetoothイヤホンをインカムヘッドセットとして 使用するための変換装置開発」
10月26日（土）	ふるさとイッチー祭2024〔～27日（日）〕
11月22日（金）	第45回コンプライアンス責任者会議
12月9日（月）	オンブズ東海第52回委員会
12月16日（月）	2024年度第1回放送人研修会 「番組制作に欠かせないものは何か？」

2025年

1月7日（火）	ストレージメディア棚卸し〔～2月13日（木）〕
2月21日（金）	第46回コンプライアンス責任者会議
3月7日（金）	第28回コンプライアンス委員会
3月10日（月）	オンブズ東海第53回委員会
3月12日（水）	「新年度 番組・イベントに関する説明会」
3月25日（火）	2024年度第2回放送人研修会 「対人関係の構築こそが、ハラスメントゼロへの第一歩」
4月2日（水）	新入社員コンプライアンス研修
4月3日（木）	東海テレビプロダクション新入社員コンプライアンス研修
4月28日（月）	第62回ギャラクシー賞 【CM部門】奨励賞 公共キャンペーン・スポット「＃ハタチ #学生 #いま」
5月23日（金）	第47回コンプライアンス責任者会議
5月30日（金）	名古屋民放 9 社コンプライアンス研修「ビジネスと人権」
6月9日（月）	オンブズ東海第54回委員会

おわりに

今年も本報告書を最後までご覧いただきありがとうございました。

今回の表紙では、緑深い草原で、額に汗しながらレンガを一つひとつ積み上げ家を建てる職人・イッチーを描きました。うしろの家の窓からは、手を振る動物の姿が見えます。

“私たち東海テレビの地道な取り組みで、地域の皆さんを笑顔にしたい…”

そんな想いを込めました。
私たちの本分は、放送やイベントなどを通じ、暮らしに役立つ情報や娯楽をお届けすることです。とはいえ自らの行いに瑕疵があれば、周りの信頼を得るのは不可能です。今、放送業界には社会の厳しい目が向けられています。私たち一人ひとりが自らを律し、たゆみない努力を通じて、豊かな地域文化を育む一助となり、視聴者の皆さんの信頼に応えていければと思います。

これからも東海テレビの取り組みにご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

東海テレビ この1年の取り組み 2025

制作・編集

東海テレビ放送
コンプライアンス推進局 コンプライアンス推進部
〒461-8501 愛知県名古屋市東区東桜一丁目14番27号
Tel. 052-951-2511（代表）
<https://www.tokai-tv.com>

表紙・裏表紙デザイン

制作局美術部 中根亜美
発行年月 2025年8月
※文中の所属・肩書については
原稿作成時点のものとなっています。



東海テレビ放送株式会社